

令和6年度

山梨大学教育学部

# 附属教育 実践総合センター

CENTER FOR EDUCATIONAL RESEARCH

育  
む  
た  
め  
に  
。

次  
代  
の  
芽  
を  
、

学  
び  
続  
け  
る  
。





# 山梨大学教育学部 附属教育実践総合センターの概要

## 概要

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター（以下、実践センター）は、山梨県内の教育現場が直面している様々な今日的課題に対応するとともに、教員育成機能の高度化を図るため、教育学部・教職大学院・附属学校園・山梨県教育委員会・県内教育関係機関・地域との緊密な連携・協働により、各種調査・研究・教員養成・育成事業を推進すること、その研究成果を学校運営、授業実践、教員育成等に還元することを目的としています。

## 組織

実践センターでは、教員養成・育成・附属学校園等の課題に確実に対応できるように、「教員育成推進部門」「附属学校園共同研究部門」「教育実践研究部門」「教職支援部門」の4つの部門が組織され、部門において「教育相談室」「やまなし情報教育推進室」「教職支援室」が運営されています。

## 山梨県教育委員会との「連携協力に関する覚書」締結による事業推進

山梨県教育委員会と山梨大学教育学部は、平成29年3月に「山梨県教育委員会と山梨大学教育学部との連携協力に関する覚書」を締結しました。これにより、教育の諸課題に対する研究・協議や教職員の研修を、県と大学が相互に連携協力しながら実施できるようになりました。実践センターでは、関係教員が「山梨県教育委員会と山梨大学教育学部との連携協議会」「同協議会・情報教育推進部会」「全国学力・学習状況調査等のデータ分析」等の協議への参加や「中堅教諭等資質向上研修」講師を務めるとともに、「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会」「初任者研修等における山梨大学教育学部教員の派遣」「期間採用者等研修」等研修事業の運営に関わっています。

## INDEX

P04 学部長・教育長からのメッセージ

P05 実践センタースタッフ紹介

P06 教員育成推進部門

P07 附属学校園共同研究部門

P08 教育実践研究部門

P10 教職支援部門

P12 刊行物・広報活動、  
プロジェクト紹介

## メッセージ



山梨大学 教育学部長

服部 一秀

山梨大学教育学部では、この山梨という地域において、教育実践の改善に向けて様々な事業を展開していく拠点として、教育実践総合センターを設置しています。

教育実践総合センターには4つの部門があります。学校教育の今日的諸課題について地域性を踏まえて取り組む〈教育実践研究部門〉、パイロットスクールとしての附属学校園の機能強化をすすめる〈附属学校園共同研究部門〉、教員の資質・能力向上のために教員養成と教員研修の改善・推進をさぐる〈教員育成推進部門〉、そして、学生一人ひとりの教職への歩みを1年次からきめ細やかにサポートする〈教職支援部門〉です。長谷川千秋センター長を中心に、実務家教員、特任教授や客員教授を含め、様々な専門性を有する総勢40名のスタッフによって、それらの課題は遂行されています。

本センターは、これまで30年以上にわたって、教育実践の改善に寄与すべく体制を整備しつつ、様々な事業を精力的に展開してきました。2023年10月には新たに、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における情報教育の一層の充実と振興を図るため、山梨県教育委員会との連携協力により、やまなし情報教育推進室を開設しました。

私たちはこれからも、山梨県内唯一の“教育学部”としての矜持をもち、山梨県教育委員会・山梨県総合教育センターとの連携協力のもと、県内の教育の一層の充実のために取り組んでまいります。皆様のさらなるご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



山梨県教育委員会 教育長

降籬 友宏

山梨大学教育学部附属教育実践総合センターは、平成元年の開設以来、30年以上にわたり関係機関との連携の下、地域に密着した様々な活動を展開し、教職を目指す学生や現職教員の支援に努めていただいております。

また、平成29年には、山梨大学教育学部と山梨県教育委員会との間で「連携協力に関する覚書」が締結され、教員の資質・能力の向上のための研修や教育諸課題に対する研究・協議を相互に連携協力して取り組んでいただいております。県教育委員会として心から感謝申し上げます。

さて、少子化やグローバル化の進展、AIなど情報化の目覚ましい発展など、急激に変化する時代の中、学校教育には誰一人取り残されることなく、全ての子供たちの可能性を引き出す教育を実現するためには、ICTを積極的に活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、「自ら考え行動し、他者と協働していく児童生徒」を育てていくことが求められています。

このため、県教育委員会では教員の資質・能力の向上を図るため、「やまなし教員等育成指標」に基づき、教員のキャリアステージに応じた研修を計画・実施しています。

しかし、学校教育には様々な今日的な課題があり、附属教育実践総合センターの先生方の御指導・御助言が必要であります。県教育委員会としては、引き続き、教員養成・人材育成にかかる附属教育実践総合センターの専門的な助言を参考に、教職員が一人ひとりの子供たちの豊かな学びについて考える貴重な機会をつくり、山梨の学校教育の基盤を強化して参りたいと思います。

今後も附属教育実践総合センターにおいては、教育行政や各学校と密接に連携していただき、本県学校教育のより一層の充実に向けた取り組みを推進いただけるようお願いいたします。

## スタッフ紹介 (令和6年4月現在)

 <p>センター長 情報教育推進室長 教授(教育実践創成講座)</p> <p><b>長谷川 千秋</b> Chiaki HASEGAWA</p>	 <p>教員育成推進部門 附属学校園共同研究部門 特任教授(情報教育推進室兼任)</p> <p><b>中込 司</b> Tsukasa NAKAGOMI</p>	 <p>教育実践研究部門 客員教授</p> <p><b>秋澤 英俊</b> Hidetoshi AKISAWA</p>
 <p>教育実践研究部門 客員教授</p> <p><b>小川 弘一</b> Koichi OGAWA</p>	 <p>教育実践研究部門 客員教授</p> <p><b>小尾 一仁</b> Kazuhito OBI</p>	 <p>教育実践研究部門 客員教授</p> <p><b>河西 美代司</b> Miyoji KASAI</p>
 <p>教育実践研究部門 客員教授</p> <p><b>桐原 ひかる</b> Hikaru KIRIHARA</p>	 <p>教育実践研究部門 客員教授</p> <p><b>河野 瑞穂</b> Mizuko KONO</p>	 <p>教育実践研究部門 客員教授</p> <p><b>小林 智</b> Satoshi KOBAYASHI</p>
 <p>教育実践研究部門 客員教授</p> <p><b>樋口 和仁</b> Kazuhito HIGUCHI</p>	 <p>教育実践研究部門 客員教授</p> <p><b>三井 正彦</b> Masahiko MITSUI</p>	 <p>教育実践研究部門 准教授 専任教員(情報教育推進室)</p> <p><b>三井 一希</b> Kazuki MITSUI</p>
 <p>教育実践研究部門 准教授 専任教員(情報教育推進室)</p> <p><b>稲垣 俊介</b> Syunsuke INAGAKI</p>	 <p>教育実践研究部門 准教授 専任教員(教育相談室)</p> <p><b>渡部 雪子</b> Yukiko WATABE</p>	 <p>教育実践研究部門 教授(教育実践創成講座)</p> <p><b>藤原 裕一</b> Yuichi FUJIHARA</p>
 <p>教育実践研究部門 教授(教育実践創成講座)</p> <p><b>萩原 佳子</b> Yoshiko HAGIHARA</p>	 <p>教育実践研究部門 准教授(教育実践創成講座)</p> <p><b>角田 大輔</b> Daisuke TSUNODA</p>	 <p>教育実践研究部門 准教授(教育実践創成講座)</p> <p><b>樋川 裕幸</b> Hiroyuki HIKAWA</p>
 <p>教職支援部門 部門長 教授(科学教育講座)</p> <p><b>清水 宏幸</b> Hiroyuki SHIMIZU</p>	 <p>教職支援部門 副部門長 教授(教育実践創成講座)</p> <p><b>新野 貴則</b> Takanori NIINO</p>	 <p>教職支援部門 教職支援領域GL 教授(芸術身体教育講座)</p> <p><b>関口 浩文</b> Hirofumi SEKIGUCHI</p>
 <p>教職支援部門 教職支援領域SL 教授(言語教育講座)</p> <p><b>小島 明子</b> Akiko KOJIMA</p>	 <p>教職支援部門 学生カルテ・分析領域GL 准教授(教育実践創成講座)</p> <p><b>杉山 雅俊</b> Masatoshi SUGIYAMA</p>	 <p>教職支援部門 学生カルテ・分析領域SL 准教授(科学教育講座)</p> <p><b>山際 基</b> Motoi YAMAGIWA</p>
 <p>教職支援部門 地域学習アシスト領域GL 准教授(山梨県小学校特別教育講座)</p> <p><b>田中 健史朗</b> Kenshiro TANAKA</p>	 <p>教職支援部門 地域学習アシスト領域SL 教授(教育実践創成講座)</p> <p><b>東海林 麗香</b> Reika SHOJI</p>	 <p>教職支援部門 教育ボランティア領域GL 教授(生活社会教育講座)</p> <p><b>志村 結美</b> Yumi SHIMURA</p>
 <p>教職支援部門 教育ボランティア領域SL 准教授(科学教育講座)</p> <p><b>佐々木 智謙</b> Tomonori SASAKI</p>	 <p>教職支援部門 教職支援室長 特任教授</p> <p><b>望月 主税</b> Chikara MOCHIZUKI</p>	 <p>教職支援部門(教職支援室) 客員教授</p> <p><b>芦澤 秀幸</b> Hideyuki ASHIZAWA</p>
 <p>教職支援部門(教職支援室) 客員教授</p> <p><b>柴田 幸也</b> Sachiya SHIBATA</p>	 <p>教職支援部門(教職支援室) 客員教授</p> <p><b>小林 新吾</b> Shingo KOBAYASHI</p>	 <p>教職支援部門(教職支援室) 客員教授</p> <p><b>玉島 正隆</b> Masataka TAMASHIMA</p>
 <p>教職支援部門(教職支援室) 客員教授</p> <p><b>有賀 望</b> Nozomu ARUGA</p>	 <p>教職支援部門(教職支援室) 特任助教 学生カルテ・分析領域、 地域学習アシスト領域補佐官</p> <p><b>倉茂 花苗</b> Kanae KURASHIGE</p>	<p>【事務職員】 センター事務室(事務補佐員1名)、 教職支援室(一般職員1名、 キャリア・アドバイザー1名、事務補佐員2名)</p>

# 教員育成推進部門

## 「学び続ける」学生・教員を支え、育てます

教員育成推進部門は、教職を志す学生と現職教員のキャリアステージに応じた学びや成長を支えます。また、山梨県内の教員養成の中核大学として、意欲と実践力の高い教員の養成、研修・研究の企画・実施、教育課程の開発等、教育現場の様々な活動を支援します。



教職大学院生の公立学校での実習

### 学生・大学院生に 教育への情熱と実践的指導力、人間力を備えた教員の育成

- 「やまなし教員等育成指標」に基づく教員養成のための教育課程の開発、授業改善
- 実習協力校、教職大学院連携協力校、附属学校園と連携した実践的指導力を高める教育実習の企画・実施

### 現職教員に 「やまなし教員等育成指標」のキャリアステージに応じた、資質能力向上のための研修の企画、実施

- 山梨県教育委員会、総合教育センターと連携した研修の企画・実施
  - ・ 中堅教諭等資質向上研修等の経年研修や教科等の研修をサポート
  - ・ 子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会「※OPPA」の実施
- 現職教員の指導力向上のニーズに応える多様な研修機会の確保
  - ・ 初任者研修等における教育学部教員の派遣
  - ・ 最新の教育の課題に即した教育フォーラムの実施
- 県内市町村（組合）教育委員会との連携の強化
  - ・ 市町村（組合）教育委員会の独自の取組をサポート



教育評価研修会（辻本講師）



第43回教育フォーラム（前田講師）

※ OPPIA とは、One Page Portfolio Assessment の略で、「一枚ポートフォリオ評価法」と呼ばれる、元山梨大学副学長の堀哲夫山梨大学名誉教授の開発した、学習者の成長を外化し教師の授業力向上につなげる評価方法です。

# 附属学校園共同研究部門

## 附属学校園の機能強化を図り、地域に根ざした学校園を目指します

附属学校園共同研究部門は、山梨の学校教育を先導するパイロットスクールとして附属学校園間・関係機関との円滑な連携体制を構築し、様々な事業を展開するとともに、附属学校園の特性を活かした先導的な実践等を通して、地域の学校園や大学の教育研究・教育活動を支援します。

### 地域の学校に 地域における指導的・モデル的な学校として県内の各学校園の取組を支援

- 地域のパイロットスクールとして、附属学校教員と学部教員が先導的・実験的に4校園共通のテーマで教育課題を研究し、その成果や課題を地域の学校に公開、発信
- 県内各学校園等の研究・研修協力のための研究・研修への協力・現職教員の指導力向上のニーズに応える附属4校園の教員派遣「とびだす!」
- 現職教員を対象とした講座「スキルアップ講座プラス」等を実施し、現職教員の実践的指導力向上のための研究・研修・実習の場を提供



附属小学校公開研究会



附属幼稚園での教育実習

### 教員を目指す学生に 大学・学部の教育実習計画に基づく教育実習を支援

- 附属学校園と連携して教育実習や事前事後指導等を通して、教員になるための基礎的基本的な資質能力を育むとともに、教職への思いと教育への情熱を高める取組を実施
- 今日的課題に対応できる資質能力実践指導の基礎を育む講座の実施
- 附属学校園と大学とをつなぎ、教育実習の円滑化、高度化を推進

### 地域に 地域と附属学校園との交流を推進し、地域に根ざした学校園を目指す

- 「きりの華」(4校園だより)発行により、附属4校園の取組を情報発信
- 大学教員が専門性を活かした講座を保護者や児童生徒を対象に4校園で実施



あおぎり講座



4校園だより「きりの華」

# 教育実践研究部門

## 教育実践研究の成果を教員育成に活かします

教育実践研究部門では、学生・山梨県内の先生方・地域の子どもや保護者・学校、山梨県の教育に関わる様々な方に対して、教育実践、臨床心理、ICT活用・情報教育等の専門的な観点から、多様な事業を展開しています。

### ✓ 教育実践研究領域

教育実践研究の成果を学生や大学院生の教師力伸長に学校の教育力向上に活かします。

#### 学生・大学院生に 教師塾プロジェクトの実施

##### ▶ 「実習前教師力養成講座」の開催

- 7月と2月に実施（7月は主に3年生を、2月は主に2年生を対象）
- 学校での指導経験豊富な講師
- 実践に基づく内容
- 間近に控えた教育実習へのヒント



後期実習前  
教師力養成講座  
(グループワーク)

##### ▶ 「模擬授業室」の開設

- N-31 教室、M-304 教室に開設
- 模擬授業や教材研究の場として 学生や院生の主体的な活用を期待

前期実習前  
教師力養成講座  
(渡井講師)



##### ▶ メンタルサポートの実施

- 教育実習委員会と連携し、実習時の心身の不調に対するサポートを実施（必要に応じてカウンセリングや実習校との調整を行う）

##### ▶ 「教員就職直前講座」の開催

- 2月に実施、4月から教職に就く学生・教職大学院生を対象
- 講師は現職の先生方等、知りたいことを心置きなく聞くことができる内容

##### ▶ 「ACTION PLAN」の配付

- 先輩から1年生へ教職イベントのインフォメーション、入学後に配布
- 自己実現のための主体的な活用を期待



模擬授業室  
活用風景

#### 学校・現職教員に 「連携・教育研究会」の開催

- 山梨県総合教育センターと連携
- 同センター研究協力校への研究面での協力

##### ▶ 「期間採用者等研修（教師力スキルアップ研修）」の開催

- 5月に実施、山梨県教育委員会と連携
- 研修の機会が十分でない期間採用者等の現職教員や学生・大学院生を対象

#### 受講者の声

・とてもわかりやすい講義でした。春から教員になり、まだまだ分からないことが多く、不安な中でしたが、講義のおかげで不安が和らいだように感じます。

・ちょっとした手遊び、早速取り入れたいと思いました。最近、自分の弱みが多く見えていたのですが、自分の強みも見つめて、なりたいた自分を思い描きながら、努力していこうと勇気づけられました。



## ✓ 教育臨床研究領域

不登校・いじめなどの学校教育における今日的課題に対する支援方法を臨床心理学的観点から研究し、幅広い教育相談活動の実践を行います。

### 県内の児童・生徒・保護者・教職員に 子どもと親と教師のための教育相談事業

- 山梨大学教育相談室は山梨県教育委員会と山梨県教育四者と連携し、児童・生徒や保護者の方から不登校、いじめ、発達面、親子関係等の相談、現場の教職員の方から教育相談、生徒指導、学級づくり、学校での人間関係、メンタルヘルス等に関する相談やコンサルテーションを受付けています。
- 相談申し込み方法【相談無料、対面・電話・メール相談可】  
実践センター HP の教育相談のページ (<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2303/>) をご確認ください、山梨大学教育相談室 (kyoiku\_soudan@yamanashi.ac.jp) までお申し込みください。
- 山梨県教育相談連絡協議会にて、研修講師を務めます。
- 不登校の子どもを支える保護者のための情報交換会を開催します。



教育相談

### 附属学校園の教員・児童・生徒・保護者に 教育相談室連絡協議会・カウンセリング・コンサルテーション

- 附属学校園の教育相談担当の教員とスクールカウンセラー、大学の教員による教育相談室連絡協議会を定期的に開催し、附属学校園における教育相談の質向上と連携に努めます。
- 附属学校園からの要請を受け、児童・生徒・保護者に対するカウンセリング、教員に対するコンサルテーションを行います。

### 県内の教員に 教育相談に関わる校内研修

- 学校からの依頼に応じ、教育相談に関わる校内研修の講師を務めています。

## ✓ 情報教育研究領域

「やまなし情報教育推進室」の事業を担い、1人1台端末とクラウド環境を活用した教育DXの推進を支援します。

### 学生・大学院生に ICT活用・情報活用能力の育成支援

- 教職科目、学校図書館司書教諭科目、博物館学芸員科目、大学院科目においてICTや情報メディアの活用に関する理論と実践について学べる科目の開講
- 高等学校「情報」免許課程の開講とカリキュラムづくり
- ICT活用や情報活用能力をテーマにした研究へのアドバイス
- 情報機器やプログラミングツールの操作方法の支援
- ICTの活用をサポートする「ICT支援学生」の養成と附属学校への派遣



情報教育研究領域の支援対象

### 学校・現職教員に 教育DXの推進を支援

- 山梨県教育委員会や県総合教育センターと連携した情報教育に関する研修の実施
- 校内研究や校務DX推進のための助言
- 高等学校「情報」免許法認定講習の実施
- オンライン研修動画コンテンツの開発と動画を活用した研修の展開
- フォーラム等学習会の実施、やまなし情報教育推進室 Web ページでの情報発信

### 附属学校園に ICT活用授業モデルの開発・授業への助言

- ICT活用授業モデルの構築と県内の学校への展開
- 附属学校園でのICTを活用した授業への助言
- 附属学校園のICT環境整備や校務DX推進への助言

## 教職支援部門(教職支援室)

### 教職支援室は教員をめざす学生を全力で応援します

教職支援部門(教職支援室)では、学生が主体的に教職へのキャリアを積み重ねていけるように、進路に関する個人面談、教育ボランティア、地域学習アシスト等学校現場での活動の企画・運営や、教員採用試験対策講座・個別指導、教職支援のための教採データ収集分析を行っています。



### 教職支援領域

1年次から、卒業・修了後までを見据え、学部・大学院の教員徴典会(同窓会組織)と連携しながら支援を展開しています。

#### 教員志望への意識喚起や教員採用に関する相談、教員採用試験対策まで幅広く支援

- 教員採用試験対策講座(教職教養・一般教養試験対策、個人面接、集団討議、模擬授業、場面指導、小論文対策)、教員採用試験説明会の企画・運営、全国自治体の教員採用試験の変更点調査、一覧表作成
- 教員採用試験に関する個別指導(主に志願書の検討、小論文の検討、個人面接指導)
- 大学教員による個別指導(個人面接・模擬授業・集団討議指導 61人の学生に 396回)
- 個人面談による進路調査(1~3年生全員(約390人)を対象)
- 教員採用試験合格体験記等の収集、情報提供
- 教採対策スケジュールの一元管理



模擬授業指導

#### 教職支援室における個別指導(令和4年10月~令和5年9月)

論作文指導回数	面接指導回数	志願書指導回数
1,119回	1,371回	107回

総指導回数 2,579回 → 23.6回  
1人あたりの指導回数  
実質指導人数 109人 指導時間は1回につき約1時間



### 学生カルテ・分析領域

個に対応するきめ細かな支援を目指しデータ収集と分析をしています。

#### 教職キャリア・ポートフォリオ・システムが学生の自主学習をサポート

- 学生がスマートフォン上で、自身の学習状況を把握することや、学んだことを記録・振り返ることができるデジタル・ポートフォリオ「キャリポ(教職キャリア・ポートフォリオ・システム)」
- 「キャリポ」は、成長するアバター、先輩のメッセージ、各種対策講座申込みなど学生にとって便利で楽しい機能が満載
- 進路希望や進路状況等の調査(3~4年生・大学院生・専攻科生)と教員採用試験結果等の分析



## ✓ 教育ボランティア領域

学生が教育現場で子どもとふれあう  
「教育ボランティア活動」を支援します。

学生と受入先との橋渡し役、多様なボランティア活動が両者にとってプラスとなるよう支援

- 学生と受入先のマッチング
- ガイダンス（前期・後期）、スタートセミナー、報告会の企画・運営
- 教育ボランティア受入先訪問
- 教育ボランティアだより、教育ボランティア通信、ガイダンスブックの作成・発行

学生運営委員会の自主運営で、教育ボランティアと学生との距離がぐっと身近に

教育ボランティアの参加者数 H17～R5の実績

実質参加者数	3,202名 年間平均 168.5名
参加希望者数	4,484名 年間平均 236名



授業支援ボランティア

教員採用試験に  
合格した約9割の学生は  
教育ボランティアに参加  
しているよ



教育ボランティアガイダンスブック

## ✓ 地域学習アシスト領域

学生・大学教員・学校がともに学校現場の課題を共有し  
解決策をさぐる本学独自の取組です。

教育ボランティア活動をベースに、その発展形となる新たな活動です

- 大学生と大学教員が小学校の学級に入り、担任の先生と相談しながら、学級の課題の改善のために児童の支援に入ります。
- 毎回の活動後に、大学で、大学生、教職大学院生、大学教員が「チームカンファレンス」を行います。  
児童の行動分析や、かかわり方について意見交換を行います。
- 令和5年度は、小学校4校に学生8名がアシストに入りました。アシストは23回、カンファレンスは17回実施しました。(6月～2月)



地域学習アシスト事業リーフレット



カンファレンス(全体会)の様子



カンファレンス(分科会)の様子

## 刊行物・広報活動、プロジェクト紹介

### センター刊行物・広報活動

- ・センター研究紀要『教育実践学研究』発行（Web版、年1回）
- ・『センターだより』発行（Web版及び学内向けメールマガジン、年5回）  
紀要目次・センターだよりバックナンバー  
<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2306/>
- ・教職支援室インスタグラム（公式）  
[https://www.instagram.com/kyousyoku\\_yamanashi\\_univ/](https://www.instagram.com/kyousyoku_yamanashi_univ/)
- ・山梨大学教育学部「教育フォーラム」開催（学部の実践教育運営委員会と連携）  
教育フォーラムの軌跡とご案内 <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2301/>

紀要目次・センターだより  
バックナンバー



教職支援室インスタグラム  
（公式）



教育フォーラムの  
軌跡とご案内



### プロジェクト紹介

実践センターでは、山梨県の情報教育・研究推進のため、県の助成を受け令和5年10月にやまなし情報教育推進室を開室しました。



開室セレモニーの様子（左から降旗教育長、中村学長）

### やまなし情報教育推進室について

小・中学校での1人1台端末の整備、高等学校「情報I」の必修化などにより、学校教育では端末の効果的な活用による新たな学びが求められるようになってきました。こうしたニーズを受け、推進室では、小・中・高・特のICT活用・情報教育において一貫性のある「やまなしメソッド」という独自のカリキュラム開発などの研究を進めるとともに、その成果を学部・大学院での教員養成、県内の教員育成に還元していきます。今後の活動は、やまなし情報教育推進室HP等で紹介していきます。

<https://www.yamanashi.info/>



やまなし情報教育推進室 HP

### 現職教員に オンライン研修動画の開発

推進室では、令和5年度文部科学省「新たな教師の学び」に対応したオンライン研修コンテンツ開発事業を受託し、やまなしメソッド（校種間を接続させた指導法）の視点から、小・中・特でのICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業づくりのポイントや、学校での実践例を紹介するオンライン研修動画を制作しました。動画は推進室HPにて無料で公開しています（要申込）。



オンライン研修動画



山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

〒400-8510 山梨県甲府市武田 4-4-37

TEL.055-220-8325 FAX.055-220-8790

E-mail: [jjissen@ml.yamanashi.ac.jp](mailto:jjissen@ml.yamanashi.ac.jp)

<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>



教育学部  
イメージ  
キャラクター

梨子ちゃん  
と  
大福くん

